

令和2年仕事始め式 市長訓示

令和2年1月6日（月）午前9時

越前市生涯学習センター eホール

新年明けましておめでとうございます。

職員の皆さんにはお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、皆さんには昨年も「元気な自立都市 越前」の創造に向け、それぞれの部署で市民福祉の向上や、市民と協働のまちづくりにご尽力をいただき、誠にありがとうございました。

最初に、昨年12月29日の未明に発生した平和町の火災により、被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げますとともに、消火活動や復旧作業にご尽力いただいた市消防団や自警消防隊、近隣の方々など、ご協力いただいた市民の皆様に感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返ると、本市が進める「半世紀に一度のまちづくり」やモノづくりの振興、多文化共生社会の推進、コウノトリが舞う里づくりなど多くの分

野で大きな成果を上げることができました。

まず、市民福祉の向上や安全・安心の拠点施設としてはもとより、市民の交流・憩いの場として平成29年8月に起工した本庁舎が昨年11月に完成し、先ほどの開庁式に続き、いよいよ本日から業務をスタートします。

新庁舎には、新たに「総合窓口」を設置し、番号案内システムの導入、死亡届に伴う手続きの予約制、申請書のワンライティング化などを行うとともに、外国人市民の増加と多国籍化に伴い、多文化共生総合相談ワンストップセンターを設置し、市民の負担軽減や待ち時間の削減など、窓口サービスの一層の向上を図ってまいります。

また、昨年11月1日には、JR武生駅前のアル・プラザ武生3階に「てんぐちゃん広場」や市民交流センターなどから成る「市民プラザたけふ」がオープンしました。

早速、多くの市民に利用いただいております。4階の市消費者センターは本日から、ハローワークたけふは5

月にそれぞれオープンし、さらなる中心市街地の活性化や市民福祉の向上に繋がるものと期待しています。

平成29年8月に再整備した武生中央公園では、「だるまちゃん広場」が大人気で、一昨年の利用者が約106万人、昨年は12月10日現在で約137万人と、観光客入込数で県内トップクラスの施設となりました。

特に、秋のたけふ菊人形は、台風で3日間休園したにもかかわらず、菊人形の展示を無料化し、会場全体に愛らしい童話の菊人形を配置したことが好評で、過去最高の約28万4千人が来場しました。

北陸新幹線の開業に向けては、令和5年春に本市の新たな玄関口となる南越駅（仮称）の内観を含めた実施デザインが、昨年4月に鉄道・運輸機構から発表され、コンコース中央の天井部分と1階及びホーム階の待合室に越前和紙を使用するとともに、コンコースの柱には越前箆笥の指物技術を生かしたデザインを配置することなどが決定しました。

駅に併設される道の駅は、令和4年度中の開業に向け、物販飲食等の運営と設計業務を委託する事業者の

公募を行い、昨年8月に受託候補者を選定しました。

本市の基盤であるモノづくりについては、昨年9月に公表された県工業統計調査で本市の平成29年製造品出荷額等が約6,139億円と、合併時の平成17年の約4,054億円と比べて150%以上も増加し、県内第1位として県全体の約3割を占めました。

伝統産業では、昨年8月に「－ECHIZEN－千年未来工藝祭」を開催し、1万人を超える来場者で賑わうとともに、10月にはタンス町通りを越前箆笥の産地全体の展示場と位置付け、賑わいと情報発信の役割を担う越前箆笥会館がオープンしました。

増設工事中のタケフナイフビレッジ協同組合の共同工房も今春に完成し、市工芸の里構想に基づく産地振興の拠点施設の整備が全て完了します。

多文化共生社会に向けては、昨年3月に市多文化共生推進プランを策定したほか、7月に外国人市民を対象に南地区で地域ミーティングを開催するとともに、11月には市ミニワールドカップフットサル交流大会と、市国際交流協会による市多文化交流フェスティバ

ルを開催し、日本人市民と外国人市民の交流や相互理解を深めました。

併せて、外国人市民防災リーダー養成研修会を受講した7人に市外国人市民防災リーダー認定証を交付し、防災態勢の強化を図りました。

コウノトリが舞う里づくりについては、安養寺町のコウノトリ人工巣塔において、コウノトリのペアの卵が昨年5月にふ化し、県内で55年ぶりに野外コウノトリのヒナが誕生しました。

また、一昨年9月に坂口地区で放鳥した「りゅうくん」が、昨年5月から7月にかけて今立地域に滞在するなど、コウノトリの生息地域が市内全域に広がってきました。

以上の通り、昨年も市政の各分野において、多くの成果を上げることができました。

これも偏に、市議会や市民の皆様のご支援、並びに職員の皆様のご尽力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

さて、本年は「市制施行15周年」の年であり、3

月には市手話言語条例の制定をはじめ、市人口ビジョンと市総合戦略の改定、市行財政構造改革プログラムの改定、市市有建築物耐震化計画の改定と市教育施設等長寿命化方針の策定、市教育振興ビジョンの改定、市南越駅周辺まちづくり計画の策定、市産業活性化プランの改定、市食と農の創造ビジョンと市鳥獣被害防止計画の改定、国民健康保険の税率の見直しなど、重要な課題が控えています

佳境を迎えた「半世紀に一度のまちづくり」の完結に向け、本年も長期的な視点から「人づくり、ものづくり、まちづくり」に取り組み、「元気な自立都市 越前」の創造を目指してまいる決意です。

併せて、本年は夏に東京オリンピックが開かれることから、本市出身のフェンシング・エペの見延和靖選手と佐藤希望選手がリオデジャネイロ大会に続き、オリンピック出場を果たすことを期待しています。

一昨年に成功裏に開催された「福井国体・障スポ」のレガシーを継承し、生涯スポーツのまちづくりや市民の健康づくりのさらなる推進に向け、両選手の応援

を市民とともに行っていきたいと思います。

新庁舎の完成に伴い、本年は新たな気分で職務に従事することとなりますが、市民サービスのさらなる向上を市民が期待していることを忘れず、全職員が一丸となって「現地現場主義」の徹底を図り、市民の多様な要望に柔軟かつ丁寧に対応するようお願いします。

また、急激な変化の時代だからこそ、「変えるべきものは大胆に見直し、変えてはいけないものはきちんと守る」ことが大切であり、「何のため・誰のため」の取り組みかを絶えず確認し、「手段が目的化したり、目的が手段化していないか」などを必ず点検して下さい。

本年も、全職員が「20年先、30年先の越前市」を見据える大局観を持つ一方、目の前の課題に丁寧に取り組み、「当たり前前的事業を確実に実践」する、「着眼大局・着手小局」の風土を庁内に築いていきたいと思います。

結びに、職員の皆さんが心身ともに健康に恵まれ、市政の発展と市民福祉の向上のために大いに活躍されることを祈念し、仕事始め式の訓示といたします。

本年も、よろしく申し上げます。